

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）

|  |  |
|--|--|
| <b>【西南学院大学神学部】</b> 9名 <2024年度奨学金貸与者数：6名> |  |
| 博士前期                                     | 原田 仰(2年・はらだ こう・平尾)、吉田 睿濫(黄 イエラム)(2年・よしだ いえらむ・松本福音村)                            |
| 学部神学コース                                  | 長尾 基詩(4年・ながお きし・府中)、伊藤 健一(3年・いとう けんいち・日本キリスト教会福岡城南教会)、張 恩榮(3年・ちゃん うによん・西福岡のぞみ) |
| 選科生                                      | 石原 誠(1年・いしはら まこと・常盤台)、大野 学(おおの まなぶ・釧路)   |
| 専攻科生                                     | 奥田 悟(おくだ さとる・東京北)  |
| リカレント生                                   | 横濱 峰二子(よこはま ふじこ・札幌)  |

|  |   |
|--|---|
| <b>【東京バプテスト神学校】</b> 8名 <2024年度奨学金支給予定者数：4名(第1回連盟理事会にて決定)> 訂正:名簿2名追加(0617改) |   |
| 神学専攻科  | 上原 一晃(うえはら かずあき・篠崎)、遠藤 守(えんどう まもる・鮫)、林 大仁(はやし ひろひと・ふじみ)、根塚 幸雄(ねづか ゆきお・横須賀長沢)、氷川 英俊(ひかわ ひでとし・百合丘)、鬼澤 寛(きざわ ひろし・篠崎)、堀端 洋一(ほりばた よういち・日本基督教団千里ニュータウン教会)、宮下 めぐみ(みやした めぐみ・日本福音キリスト教会連合 厚木緑ヶ丘キリスト教会) |

|                        |   |
|------------------------|---|
| <b>【九州バプテスト神学校】</b> 6名 |   |
| 専攻科                    | 石橋 貞男(いしばし さだお・門司港)、篠田 裕俊(しのだ ひろとし・田隈)、海蔵 和香(かいぞう わか・都城)、山崎 誠(やまさき まこと・佐賀)、柚之原 かおり(ゆのはら かおり・長崎インターナショナル教会(単立)、田中 敦子(たなか あつこ・福岡西部) |

|   |  |
|---|--|
| <b>【神学校献金】</b>  |  |
| <p><b>【名称】</b>神学校献金は従来から、西南学院大学神学部(以下、西南神学部と略す)で学ぶ神学生(大学院生も含む)の授業料と生活費の一部を支えるために、奨学金として、授業料全額を貸与し、生活費は給付ということで、用いられてきました。そして、2012年度から連合立神学校等で将来伝道者となるために学ぶ神学生-東京バプテスト神学校(以下東バプと略す)の専攻科、九州バプテスト神学校(九バプと略す)の専攻科の学生にその校納金の80%に相当する金額を奨学金として、それぞれの神学校から支給されるようになりました。そこで、「神学校献金」の用途を明確にするために、2013年度から、「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更しました。</p> <p><b>【内容】</b>西南神学部神学生には、校納金の費用として、1種奨学金を貸与し(条件を満たせば、2割は返還義務がありますが、8割は返還免除)、また、2種奨学金は、生活費及び学習支援として、返済義務のない(家族のいる者や独身者によって違う)ものとして、現在は支給しております。また、神学校献金の中から、東バプと九バプの専攻科の神学生</p> | <p>には、それぞれの神学校を經由して校納金の8割が奨学金として支給されており、こちらは両神学校の奨学金規定により返還の適否が判定されます。)</p> <p><b>【返還】</b>西南神学部神学生の1種奨学金の返還は卒業後4年以上伝道の業に従事し、卒業後15年以内に1種奨学金の2割以上返還した場合はその残額は免除されます。また、伝道の業への従事期間が2年以上、4年未満でも返済額は貸与額の3割または5割が免除されます。詳細は全国壮年会連合のホームページで規程を御確認下さい。</p> <p><b>【献げ方】</b>毎年6月第4主日から行われる神学校週間や、年間を通じて、そして教会の經常会計からのものを含めて、神学校献金を献げられているかと思えます。全国壮年会連合は本活動を積極的に推進しておりますので、皆様におかれましては、教会全体の業となっていくことを期待しております。</p> |